

令和8年7月27日(月)

しなやかに生きる子ども

1 学年 道徳科

「1 年 2 組 もっとぽかぽか大作戦～は
しのうえのおおかみ」

「自分だけでなく、相手も“いい気持ち”だね。」

道徳科では、自分自身を見つめ、自他との対話を通して、よりよい生き方を考える姿を目指します。登場人物に自分を重ね、一人ひとりが思いをもち、自分とは異なる考えや思いの理由と一緒に考えていくことで、自分の生活に生かすことができるようにします。教材「はしのうえのおおかみ」の登場人物の行動の変容を通して、「親切にすることはいいこと」から、さらに踏み込み、親切にすることによって得られる気持ちや親切が周りに与える気持ちなどに、触れていく時間となるようにしました。そのために、役割演技を中心に学習を進めることで、役になりきる楽しさを味わいながらも自分をその中に投影させ、客観的に物事を捉えるだけではなく自分事として考える姿が見られました。

私たちは、自分の意思をもって粘り強く学ぶ力強さと仲間の考えを受け入れながら学んでいく柔軟さを兼ね備えた「しなやかに生きる子ども」を育みます。そのために、他者とつながり合い、“うれしい”を見いだす学びを大切にしていきます。多様な個を認め、高め合いながら学べるように「教材化」「教師の立ち位置」の二つの視点から、子ども一人一人を大切にした授業の在り方を探っていきます。

道徳科 1年「1年2組ぽかぽか大作戦～はしのうえのおおかみ」より

視点1

多様な個が生きる教材化

本時「はしのうえのおおかみ」では、役割演技を取り入れることで、登場人物の心情を体験的に理解できるようにし、子ども自身がおおかみのせりふや動きを考える中で、思いやりや優しさの意味に主体的に気付く学びを目指しました。「意地悪って楽しいな。」「くまさんのように優しくになりたい。」「相手が喜ぶと、自分も嬉しいね。」などと、3つの場面の役割演技を通して、おおかみの心の変化を理解するきっかけとなりました。

一方、場面の理解が不十分で、役割演技が難しいペアもいたので、全員が同じ土台に立つためにも内容理解を深めるための工夫が必要でした。また、3つの場面の回数は適正か、おおかみとうさぎの両方を演じる必要性があったのかなど、もっと子どもの実態にあった手立てを考える課題が見えてきました。



多様な個が生きる教師の立ち位置

視点2



導入では、教材文とつなげるために、子どもたちにとっての「いい気持ち」を出し合い、問い返ししながら共有していくことで多様な感じ方を知ることができました。

そして、教材文に出てくる2つの「いい気持ち」について、自分だけの「いい気持ち」と自分だけでなく、相手も「いい気持ち」の違いを明らかにし、親切、思いやりについて考えを深めることができました。

また終末で、日常生活と結びつけるために、教室での「いい気持ち」の場面の写真やイラストを提示しました。そうすることで、自分の行動を振り返り、思いやりの心のもとである、他者が喜べば自分も嬉しくなる心を自覚するきっかけとなり、自分たちの生活に生かすことができました。

道徳科 4年「PROGRESS～進級に向けて」より

視点1

多様な個が生きる教材化

一人一人の子ども自身が「自分だったら。」と自分の体験や身の回りの生活と関係があることとして捉えられるように、導入で事前アンケートをもとに考える時間をとった。その上で、教材文とつなげるようにした。分かっていることができないことがあるなど、人間の弱さにも触れ、多様な思いを共有する時間とした。それにより、教材文の登場人物の行為や心情を自分事に考える様子が見られた。

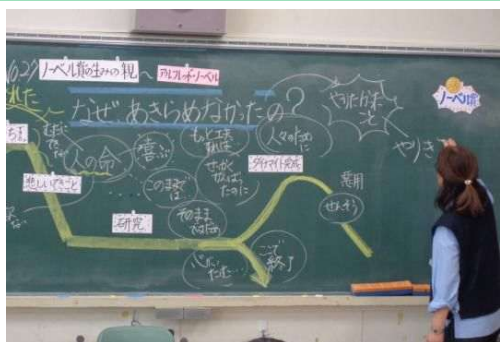
「自分だったら。」と自分事として考えた上で、他者の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりする交流場面をもつようにした。他者の考えを聞くことで、自分の立場と同じでも、理由が違うなど、多様な考えに触れることができた。同時に自分の考えを聞いてもらうことも大切な気付きにつながると考える。

新しい気付きや価値観に出合うことが学級で学習する喜びとして実感するようになってきている。振り返りの中に、学習の中で心に残った友達の考えや友達の名前が多く見られるようになり、交流の際には嬉しそうな様子が見られた。



多様な個が生きる教師の立ち位置

視点2



教材文の登場人物の心情の変化が分かりやすいように、「この時はどんな感じだったかな。」と板書に、線で位置付けるようにした。そのことで、「どうして続けられたのかな。」という問いが、「もしあきらめていたら。」と視覚的に比較できるものになった。板書を意図的に整理することで、子どもたちの考えを整理したり、引き出したりする役割となっていた。

子どもの思いを受け止める中でも、「なぜそう思ったの。」などと理由を問い返したり、「本当にそれだけかな。」などもう一步深く考えを聞き出したりすることが、必要であると感じた。問い返すことで、新しい考えやより深い考えを全体に引き出すことができると考えた。

最後に、学んだことを日常につなげていくような立ち位置をとり、学習のまとめを行うようにしていきたい。